事例No.	2787
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	北海道上川町

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・人材確保・育成

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

民間企業と連携した「世界に誇る通年型山岳リゾートタウン」プロジェクトへの取組

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



民間企業と連携した「世界に誇る通年型山岳リゾートタウン」プロジェクトへの取組

北海道上川町（かみかわちょう）

DATA

事　例　名：上川町
所　在　地：北海道上川郡上川町南町180番地
連　絡　先：TEL 01658-2-1211
　　FAX 01658-2-1220
ホームページ：https://www.town.hokkaido-kamikawa.lg.jp/

取組の概要

上川町は日本最大の山岳公園である「大雪山国立公園」をはじめとした、豊かな自然環境や層雲峡温泉などの観光資源を有しているが、近年の人口や観光客の減少により地域経済が低下していた。そのような中、当町はさまざまな民間企業と連携し、大雪山周辺の自然環境を主軸とした観光振興や交流型市民大学などによる「通年型山岳リゾートタウン」を目指し、交流・移住・関係人口の創出を図り、アウトドアによる持続可能な地域社会の構築を進めている。

評価された点

●官と民、ならびに地域の人間関係においても風通しがよく、老若男女が地域のために活動しやすい環境にあり、外部から参入する人や組織に対しても開かれ、全国的にも先進的なまちづくりが進んでいる点を評価。
●町全体をキャンパスに、通年型山岳リゾートタウンと自分の町を「再定義」することで、都会からさまざまなステークホルダーを惹きつけ、うまく地域活性化に取り込んでいる事例である。
●町の方向性を示したことで、都市部からも時代に応じた連携の申し込みが増え、多展開できている。多種多様な主体と連携構築による共創プロジェクトの創出している点を評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2009年
旭ヶ丘地区活性化計画策定
農業・商業・観光の産業間連携や住民参加型による観光地づくりを推進するため、「旭ヶ丘地区」の整備や官民協働での運営を計画。

・旅行形態の変化により観光客が減少し、それに伴い人口も減少。
・大雪森のガーデンなどを整備。

2016年
上川町タウンプロモーション戦略プラン策定
・地域の観光戦略の見直しを行い、観光関連事業者などが共有できる観光地としてのビジョンである「北の山岳リゾート」を提唱。



・産業間連携による周遊滞在プランの開発。
・観光マネジメント組織の立ち上げ準備。

2016年
大雪山大学の開校
・上川町全体をキャンパスに見立て、子供から大人までが気軽に参加できる交流型市民大学を開校。

・様々な講座やイベント、子供達を対象としたキャリア教育などを展開。

2017年
・地域DMC大雪山ツアーズ㈱設立。

2018年
世界に誇る通年型山岳リゾートタウン実現プロジェクト策定
・「北の山岳リゾート」を住む人・働く人・旅する人・関わる人達の豊かさを追求する「世界に誇る通年型山岳リゾートタウン」へと深化させる。

・都市部企業と連携した商品開発。





2018年
カミカワークプロジェクト開始
・「上川町での新しい働き方」をテーマとした移住促進プロジェクトを開始。



・活動ジャンルを明確化しつつ自由な活動も推奨する「カミカワークプロデューサー（地域おこし協力隊）」の採用などを展開。

2021年
上川超プロジェクト開始
・住む場所・働く場所・職業・年齢などのあらゆる枠を超えた新しいまちづくりのカタチを追求する関係人口プロジェクトを開始。



今後の展望
・関係人口の創出や地域包括連携協定の推進などにより、「官と民」「都市と地方」「地域と地域」が連携し、まちづくりや行政サービスの限界突破をめざす「官民共創パブリック」の動きを加速させる。
・観光資源のみならず、人と人のつながりを資源にまちづくりを進める。

受賞者のコメント

この度、地方自治体表彰という大変すばらしい賞をいただき心から感謝申し上げます。このような名誉ある賞をいただくことができたのは、住民の方々をはじめ地域内外のパートナーの皆様とともに、「より良い地域」、「より良い社会」、そして「あらゆる人々の豊かな暮らし」の実現に向けたさまざまなチャレンジに、ともに汗を流してきた成果と思っております。今回の受賞を励みに、わたしたち上川町はこれからも小さな町の大きなチャレンジを続けていきたいと考えています。